６　体育科／保健体育科

【教科の目標】

学部／目標	小学部	中学部
	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。	各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。	各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

【段階の目標】

学部・段階／目標	小学部			中学部	
	１段階	２段階	３段階	１段階	２段階
知識・技能	教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。	各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。
学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするとともに、自分から健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。	各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。	各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組む態度を養う。

内容＼学部・段階		小学部		
		１段階	２段階	３段階
A体つくり運動遊び（小1段階） A体つくり運動（小2段階～中）	知識・技能	教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。	教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体つくり運動をすること。	基本的な体つくり運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	思考・判断・表現	手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	基本的な体つくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	基本的な体つくり運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、体つくり運動遊びをしようとすること。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体つくり運動をしようとすること。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく基本的な体つくり運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。
B器械・器具を使っての遊び（小１段階） B器械・器具を使っての運動（小2，3段階） B器械運動（中）	知識・技能	教師と一緒に、器械・器具を使って楽しく体を動かすこと。	教師の支援を受けながら、楽しく器械・器具を使っての基本的な運動をすること。	器械・器具を使っての基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な運動を身に付けること。
	思考・判断・表現	器械・器具を使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	器械・器具を使っての基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	器械・器具を使っての基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、器械・器具を使っての遊びをしようとすること。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、器械・器具を使っての基本的な運動をしようとすること。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく器械・器具を使っての基本的な運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとすること。
C走・跳の運動遊び（小１段階） C走・跳の運動（小2，3段階） C陸上運動（中）	知識・技能	教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと。	教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の基本的な運動をすること。	走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	思考・判断・表現	走ったり、跳んだりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	走・跳の基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	走・跳の基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、走・跳の運動遊びをしようとすること。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、走・跳の基本的な運動をしようとすること。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく走・跳の基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。
D水遊び（小１段階） D水の中での運動（小2，3段階） D水泳運動（中）	知識・技能	教師と一緒に、水の特性を生かした簡単な水遊びを楽しくすること。	教師の支援を受けながら、楽しく水の中での基本的な運動をすること。	水の中での基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	思考・判断・表現	水の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	水の中での基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	水の中での基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、水遊びをしようとすること。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、水の中での基本的な運動をしようとすること。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく水の中での基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。
Eボール遊び（小１段階） Eボールを使った運動ゲーム（小2，3段階） E球技（中）	知識・技能	教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。	教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	思考・判断・表現	ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとすること。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとすること。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。
F武道（中）	知識・技能	－	－	－
	思考・判断・表現	－	－	－
	学びに向かう力・人間性	－	－	－
F表現遊び（小１段階） F表現運動（小2，3段階） Gダンス（中）	知識・技能	教師と一緒に、音楽の流れている場所で楽しく体を動かすこと。	教師の支援を受けながら、音楽に合わせて楽しく表現運動をすること。	基本的な表現運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付け、表現したり踊ったりすること。
	思考・判断・表現	音楽の流れている場所で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	基本的な表現運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	基本的な表現運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	学びに向かう力・人間性	簡単な合図や指示に従って、表現遊びをしようとすること。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な表現運動をしようとすること。	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく表現運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとすること。
G保健（小） H保健（中）	知識・技能	教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。	教師の支援を受けながら、健康な生活に必要な事柄をすること。	健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
	思考・判断・表現	健康な生活に必要な事柄に気付き、教師に伝えること。	健康な生活に必要な事柄に慣れ、感じたことを他者に伝えること。	健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

中学部	
１段階	２段階
体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、その行い方を理解し、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりすること。
体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けること。	器械運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技を身に付けること。
器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	器械運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
器械・器具を使った運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	器械運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や器械・器具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。	陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。
陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	陸上運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	陸上運動に積極的に取り組み、きまりを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること。	水泳運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付けること。
初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	水泳運動についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	水泳運動に積極的に取り組み、きまりなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。	球技の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。
球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	球技についての自分やチームの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	球技に積極的に取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動すること。
武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること。	武道の楽しさや喜びに触れ、その行い方や伝統的な考え方を理解し、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。
武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	武道についての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
武道に進んで取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	武道に積極的に取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
ダンスの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。	ダンスの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解し、基本的な技能を身に付け、表現したり踊ったりすること。
ダンスについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	ダンスについての自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。
ダンスに進んで取り組み、友達の動きを認め協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること。	ダンスに積極的に取り組み、友達のよさを認め助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の力を発揮して運動をすること。
体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な知識及び技能を身に付けること。	体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けること。
自分の健康・安全についての課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。	自分やグループの健康・安全についての課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。

体育科／保健体育科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈小・中学部共通〉	○各段階の内容のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせ、遊びや運動、健康についての自己（中学部は「自他」）の課題に気付き、個々の児童生徒の障害の状態等に応じて、その解決のための方法を選んだり工夫したりするような活動の充実を図る。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう、留意する。
〈小学部〉	○「体つくり運動遊び」又は「体つくり運動」及び「保健」については、６学年間にわったって取り扱う。 ○「保健」については、生活科の「基本的生活習慣」や「安全」などとの関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにする。
〈中学部〉	○「体つくり運動」及び「保健」については、３学年間にわたって取り扱う。

【内容の取扱い】

〈小・中学部共通〉	○学校や地域の実態を考慮するとともに、個々の児童生徒の障害の状態等、遊びや運動の経験及び技能の程度などに応じた指導や児童生徒自らが遊びや運動の課題の解決を目指す活動を行えるよう工夫する。 ○運動を苦手と感じている児童生徒や、運動に意欲的に取り組まない児童生徒への指導を工夫する。 ○自然との関わりの深い活動（雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動など）の指導については、児童生徒の障害の状態等、学校や地域の実態等に応じて積極的に行うことに留意する。
〈小学部〉	○「体つくり運動遊び」及び「体つくり運動」から「表現遊び」及び「表現運動」までと、「保健」との関連を図る指導を工夫する。 ○オリンピック・パラリンピックなどとも関連させ、遊びや運動を「すること」「知ること」「見ること」「応援すること」などにつながるようにする。
〈中学部〉	○「体つくり運動」から「ダンス」までと「保健」との関連を図る指導を工夫する。 ○「球技」については、個の能力だけでなく、より集団を意識したゲームを取り扱うものとする。 ○「武道」については、武道場や用具の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、安全面に十分に留意する。 ○オリンピック・パラリンピックなどとも関連させ、フェアなプレイを大切にするなど、生徒の発達の段階に応じて、運動やスポーツの大切さや必要性等に触れるようにするとともに、運動やスポーツを「すること」「知ること」「見ること」「応援すること」などの多様な関わり方について取り扱うようにする。

7　社会科

【教科の目標】

中学部	
社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心をもち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史と伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	社会的事象について、自分の生活と結び付けて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	社会に主体的に関わろうとする態度を養い、地域社会の一員として人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。

【段階の目標】

学部・段階 ＼ 目標	中学部	
	１段階	２段階
	日常生活に関わる社会的事象が分かり、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	日常生活に関わる社会的事象について理解し、地域社会の一員としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。
知識・技能	身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関わりが分かるとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。	自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活の関連を踏まえて理解するとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。	社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。
学びに向かう力・人間性	身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。	社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。

社会【内容】

内容＼学部・段階			中学部	
			１段階	２段階
ア　社会参加ときまり	集団生活		社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中で役割を果たすための知識や技能を身に付けること。	学級や学校の中で、意見を述べ合い、助け合い、協力しながら生活する必要性を理解し、そのための知識や技能を身に付けること。
		思考・判断・表現	集団生活の中で何が必要かに気付き、自分の役割を考え、表現すること。	周囲の状況を判断し、集団生活の中での自分の役割と責任について考え、表現すること。
	きまり		社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	社会生活に必要なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	家庭や学校でのきまりを知り、生活の中でそれを守ることの大切さが分かること。	家庭や学校、地域社会でのきまりは、社会生活を送るために必要であること理解すること。
		思考・判断・表現	社会生活ときまりとの関連を考え、表現すること。	社会生活に必要なきまりの意義について考え、表現すること。
イ　公共施設と制度	公共施設の役割		公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	公共施設の役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	身近な公共施設や公共物の役割が分かること。	自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。
		思考・判断・表現	公共施設や公共物について調べ、それらの役割を考え、表現すること。	公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え、表現すること。
	制度の仕組み		制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	制度の仕組みに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	身近な生活に関する制度が分かること。	社会に関する基本的な制度について理解すること。
		思考・判断・表現	身近な生活に関する制度について調べ、自分との関わりを考え、表現すること。	社会に関する基本的な制度について調べ、それらの意味を考え、表現すること。
ウ　地域の安全	地域の安全		地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	地域の安全に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	地域の安全を守るため、関係機関が地域の人々と協力していることが分かること。	地域の関係機関や人々は、過去に発生した地域の自然災害や事故に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。
		思考・判断・表現	地域における災害や事故に対する施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、そこに関わる人々の働きを考え、表現すること。	過去に発生した地域の自然災害や事故、関係機関の協力などに着目して、危険から人々を守る活動と働きを考え、表現すること。
エ　産業と生活	産業と地域		仕事と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	県内の特色ある地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることが分かること。	地域では、人々が協力し、産業の発展に努めていることを理解すること。
		思考・判断・表現	仕事の種類や工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。	人々の活動や産業の歴史的背景などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。
	産業と生活		身近な産業と生活に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	生活を支える事業に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	販売の仕事は、消費者のことを考え、工夫して行われていることが分かること。	水道、電気及びガスなどの生活を支える事業は、安全で安定的に供給や処理できるよう実施されていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。
		思考・判断・表現	消費者の願いや他地域との関わりなどに着目して、販売の仕事に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現すること。	供給や処理の仕組みや関係機関の協力などに着目して、水道、電気及びガスなどの生活を支える事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。

内容＼学部・段階			中学部	
			１段階	２段階
オ　我が国の地理や歴史	地域の様子		身近な地域や市区町村(以下「市」という。)の様子に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	身近な地域や自分たちの市の様子が分かること。	自分たちの県の概要を理解すること。
		思考・判断・表現	都道府県(以下「県」という。)内における市の位置や市の地形、土地利用などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。	我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形などに着目して、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現すること。
	地域の移り変わり		身近な地域の移り変わりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	県内の伝統や文化、先人の働きや出来事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	身近な地域や自分たちの市の様子、人々の生活は、時間とともに移り変わってきたことを知ること。	県内の主な歴史を手掛かりに、先人の働きや出来事、文化遺産などを知ること。
		思考・判断・表現	交通や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現すること。	歴史的背景や現在に至る経緯などに着目し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、それらの特色を考え、表現すること。
カ　外国の様子	国際交流		世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	世界の中の日本と国際交流に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	文化や風習の特徴や違いを知ること。	文化や風習の特徴や違いを理解すること。
		思考・判断・表現	そこに暮らす人々の生活などに着目して、日本との違いを考え、表現すること。	人々の生活や習慣などに着目して、多様な文化について考え、表現すること。
	世界の地域		―	世界の様々な地域に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	―	人々の生活の様子を大まかに理解すること。
		思考・判断・表現	―	世界の出来事などに着目して、それらの国の人々の生活の様子を捉え、交流することの大切さを考え、表現すること。

【教解 P301】

社会【指導計画作成上の配慮事項】

〈中学部〉

○単元など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、生活に即した具体的で分かりやすい内容を取り上げ、社会的事象の見方・考え方を働かせ、事象の特色や意味などを考え、説明したり表現したりするなど、自ら意欲的に取り組むことのできる活動の充実を図る。
○各教科等との関連を図り、指導の効果を高めるようにするとともに、小学部の生活科との関連を踏まえて、系統的・発展的に指導できるようにする。
○コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うようにする。

社会【内容の取扱い】

〈中学部〉

○各学校においては、地域の実態を生かして、生徒が興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、観察や見学、聞き取りなどの調査活動を含む具体的な体験を伴う学習を通し、自分の生活と結びつけて考えたことをまとめることで知識が深まるようにする。
○「社会参加ときまり」については、集団生活を送る上で必要とされる人との関わりやきまりを守ることについて理解できるようにするとともに、主体的に社会参加するための基礎的な力を養う。
○「公共施設と制度」については、身近な公共施設を取り上げ、その役割や利用できる制度を知ることで、よりよい社会生活を送ることができるようにする。
○「地域の安全」については、地域の実態に応じて、地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害などの中から取り上げ、地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるようにする。
○「産業と生活」については、身近な仕事を通して生産や販売について関心をもつようにする。また、生活を支える事業について取り扱うことで、節水や節電の必要性を感じて取り組もうとする。
○「我が国の地理や歴史」については、地図の扱いに慣れるようにする。また、主な文化財や年中行事の中から具体的事例を取り上げ、その特色が大まかに分かるようにする。
○「外国の様子」については、我が国や諸外国には国旗があることを理解し、それを尊重する態度を養えるようにする。

８　理科

【教科の目標】

中学部	
自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって、観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	自然の事物・現象についての基本的な理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	観察、実験などを行い、疑問をもつ力と予想や仮説を立てる力を養う。
学びに向かう力、人間性等	自然を愛する心情を養うとともに、学んだことを主体的に日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

【段階の目標】

学部・段階 ＼ 目　標		中学部	
		１段階	２段階
Ａ生命	知識・技能	身の回りの生物の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	身の回りの生物の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。
	学びに向かう力・人間性	身の回りの生物の様子について進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わりについて見いだした疑問を進んで調べ、生物を愛護する態度や学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。
Ｂ地球・自然	知識・技能	太陽と地面の様子について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。	雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星についての理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	太陽と地面の様子から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。
	学びに向かう力・人間性	太陽と地面の様子について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	雨水の行方と地面の様子、気象現象、月や星について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。
Ｃ物質・エネルギー	知識・技能	物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について気付き、観察、実験などに関する初歩的な技能を見付けるようにする。	水や空気の性質につていの理解を図り、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けるようにする。
	思考・判断・表現	物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路から、主に差異点や共通点に気付き、疑問をもつ力を養う。	水や空気の性質について、疑問をもったことについて既習の内容や生活経験を基に予想する力を養う。
	学びに向かう力・人間性	物の性質、風やゴムの力の働き、光や音の性質、磁石の性質及び電気の回路について進んで調べ、学んだことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。	水や空気の性質について見いだした疑問を進んで調べ、学んだことを日常生活や社会生活などに生かそうとする態度を養う。

理科【内容】

内容＼学部・段階			中学部	
			１段階	２段階
Ａ 生命	身の回りの生物（１段階）		身の回りの生物について、探したり育てたりする中で、生物の姿に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人や他の動物について、骨や筋肉のつくりと働きに着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	人の体のつくりと運動（２段階）	知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・生物は、色、形、大きさなど、姿に違いがあること。 ・昆虫や植物の育ち方には一定の順序があること。	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・人の体には、骨と筋肉があること。 ・人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。
		思考・判断・表現	身の回りの生物について調べる中で、差異点や共通点に気付き、生物の姿についての疑問をもち、表現すること。	人や他の動物の骨や筋肉のつくりと働きについて調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。
	季節と生物		―	身近な動物や植物について、探したり育てたりする中で、動物の活動や植物の成長と季節の変化に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	―	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。 ・植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。
		思考・判断・表現	―	身近な動物の活動や植物の成長の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。
Ｂ 地球・自然	太陽と地面の様子（１段階）		太陽と地面の様子との関係について、日なたと日陰の様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	雨水の行方と地面の様子について、流れ方やしみ込み方に着目して、それらと地面の傾きや土の粒の大きさとを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	雨水の行方と地面の様子（２段階）	知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・日陰は太陽の光を遮るとできること。 ・地面は太陽によって暖められ、日なたと日陰では地面の暖かさに違いがあること。	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・水は、高い場所から低い場所に流れて集まること。 ・水のしみ込み方は、土の粒の大きさによって違いがあること。
		思考・判断・表現	日なたと日陰の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、太陽と地面の様子との関係についての疑問をもち、表現すること。	雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。
	天気の様子		―	天気や自然界の水の様子について、気温や水の行方に着目して、それらと天気の様子や水の状態変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	―	・天気によって１日の気温の変化の仕方に違いがあること。 ・水は、水面や地面などから蒸発し、水蒸気になって空気中に含まれていくこと。
		思考・判断・表現	―	天気の様子や水の状態変化と気温や水の行方との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を元に予想し、表現すること。
	月と星		―	月や星の特徴について、位置の変化や時間の経過に着目して、それらを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	―	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・月は日によって形が変わって見え、１日のうちでも時刻によって位置が変わること。 ・空には、明るさや色の違う星があること。
		思考・判断・表現	―	月の位置の変化と時間の経過との関係について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。

内容＼学部・段階			中学部	
			1段階	2段階
C 物質・エネルギー	物の重さ（1段階）		物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	水や空気の性質について、体積や状態の変化に着目して、それらと温度の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	水や空気と温度（2段階）	知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・物は、形が変わっても重さは変わらないこと。 ・物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・水や空気は、温めたり冷やしたりすると、その体積が変わること。 ・水は、温度によって水蒸気や氷に変わること。
		思考・判断・表現	物の形や体積と重さとの関係について調べる中で、差異点や共通点に気付き、物の性質についての疑問をもち、表現すること。	水や空気の体積や状態の変化について調べる中で、見いだした疑問について、既習の内容や生活経験を基に予想し、表現すること。
	風やゴムの力の働き		風やゴムの力の働きについて、力と物の動く様子に着目して、それら比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	―
		知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・風の力は、物を動かすことができること。また、風の力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。 ・ゴムの力は、物を動かすことができること。また、ゴムの力の大きさを変えると、物が動く様子も変わること。	―
		思考・判断・表現	風やゴムの力で物が動く様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、風やゴムの力の働きについての疑問をもち、表現すること。	―
	光や音の性質		光や音の性質について、光を当てたときの明るさや暖かさ、音を出したときの震え方に着目して、光の強さや音の大きさを変えたときの違いを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	―
		知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・日光は直進すること。 ・物に日光を当てると、物の明るさや暖かさが変わること。 ・物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること。	―
		思考・判断・表現	光を当てたときの明るさや暖かさの様子、音を出したときの震え方の様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、光や音の性質についての疑問をもち、表現すること。	―
	磁石の性質		磁石の性質について、磁石を身の回りの物に近付けたときの様子に着目して、それらを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	―
		知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・磁石に引き付けられる物と引き付けられない物があること。 ・磁石の異極は引き合い、同極は退け合うこと。	―
		思考・判断・表現	磁石を身の回りの物に近付けたときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、磁石の性質についての疑問をもち、表現すること。	―
	電気の通り道		電気の回路について、乾電池と豆電球などのつなぎ方と、乾電池につないだ物の様子に着目して、電気を通すときと通さないときのつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	―
		知識・技能	次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する初歩的な技能を身に付けること。 ・電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること。 ・電気を通すものと通さないものがあること。	―
		思考・判断・表現	乾電池や豆電球などをつないだときの様子について調べる中で、差異点や共通点に気付き、電気の回路についての疑問をもち、表現すること。	―

理科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈中学部〉	○単元など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うなどの、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図る。 ○各段階で育成を目指す思考力、判断力、表現力等については、当該段階において育成することを目指す力のうち、主なものを示したものであり、実際の指導に当たっては、他の段階で掲げている力の育成についても十分に配慮する。

【内容の取扱い】

〈中学部〉	○実験を行うに当たっては、身の回りのことや生活に関わる簡単なものを取り扱う。 ○生物、天気などに関する指導に当たっては、自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに、生命を尊重し、身の回りの自然環境の保全に寄与する態度を養うようにする。 ○天気などに関する指導に当たっては、災害に関する基礎的な理解が図られるようにする。 ○理科で学習することが様々な職業などと関係していることにも触れるようにする。 ○博物館や科学学習センターなどと連携、協力を図る。

【事故防止について】

〈中学部〉	○観察、実験などの指導に当たっては、事故防止に十分留意する。また、環境整備に十分配慮する。

９　職業・家庭科

【教科の目標】

中学部	
生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力、人間性等	よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

【段階の目標】

職業分野

学部・段階 ＼ 目標	中学部	
	１段階	２段階
	職業に係る見方・考え方を働かせ、作業や実習に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識・技能	職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。	将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。
学びに向かう力・人間性	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

家庭分野

学部・段階 ＼ 目標	中学部	
	１段階	２段階
	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識・技能	家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。	家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。
学びに向かう力・人間性	家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	家庭や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。

職業分野【内容】

内容＼学部・段階			中学部	
			１段階	２段階
Ａ 職業生活	働くことの意義		働くことに関心をもち、作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	働くことに対する意欲や関心を高め、他者と協力して取り組む作業や実習等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			・働くことの目的などを知ること。 ・意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。 ・作業や実習等で達成感を得ること。	・働くことの目的などを理解すること。 ・意欲や見通しをもって取り組み、自分と他者との関係や役割について考えること。 ・作業や実習等で達成感を得て、進んで取り組むこと。
	職業		職業に関わる事柄について、考えたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業に関わる事柄について、考え方を深めたり、体験したりする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		知識・技能	・職業生活に必要な知識や技能について知ること。 ・職業生活を支える社会の仕組み等があることを知ること。 ・材料や育成する生物等の扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について知ること。 ・作業課題が分かり、使用する道具の扱い方に慣れること。 ・作業の持続性や巧緻性などを身に付けること。	・職業生活に必要な知識や技能を理解すること。 ・職業生活を支える社会の仕組み等があることを理解すること。 ・材料や育成する生物等の特性や扱い方及び生産や生育活動等に関わる基礎的な技術について理解すること。 ・作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 ・作業の確実性や持続性、巧緻性等を身に付けること。
		思考・判断・表現	・職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について気付くこと。 ・作業に当たり安全や衛生について気付き、工夫すること。 ・職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	・職業に関わる事柄と作業や実習で取り組む内容との関連について、考えて、発表すること。 ・作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 ・職業生活に必要な健康管理について考えること。
Ｂ 情報機器の活用	情報機器の活用		職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で使われるコンピュータ等の情報機器を扱うことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			・コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。 ・コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	・コンピュータ等の情報機器の基礎的な操作の仕方を知り、扱いに慣れること。 ・コンピュータ等の情報機器を扱い、体験したことや自分の考えを表現すること。
Ｃ 産業現場等における実習	産業現場等における実習		実際的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
			・職業や進路に関わることについて関心をもったり、調べたりすること。 ・職業や職業生活、進路に関わることについて、気付き、他者に伝えること。	・職業や進路に関わることについて調べて、理解すること。 ・職業や職業生活、進路に関わることと自己の成長などについて考えて、発表すること。

家庭分野【内容】

内容＼学部・段階		中学部	
		１段階	２段階
Ａ 家族・家庭生活	自分の成長と家族	自分の成長に気付くことや家族のことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の成長と家族や家庭生活などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・自分の成長を振り返りながら、家庭生活の大切さを知ること。 ・家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよい関わり方について気付き､それらを他者に伝えること。	・自分の成長を振り返り、家庭生活の大切さを理解すること。 ・家族とのやりとりを通して、家族を大切にする気持ちを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。
	家庭生活と役割	家庭の中での役割になどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	家庭の中での役割になどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知ること。 ・家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に気付き、それらを他者に伝えること。	・家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。 ・家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。
	家庭生活における余暇	家庭における余暇の過ごし方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	家庭生活における健康や余暇に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・健康や様々な余暇の過ごし方について知り、実践しようとすること。 ・望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付き、工夫すること。	・健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。 ・望ましい生活環境や健康管理及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。
	幼児の生活と家族（1段階） 家族や地域の人々との関わり（2段階）	幼児と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	家族との触れ合いや地域の人々と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・幼児の特徴や過ごし方について知ること。 ・幼児への適切な関わり方について気付き、それらを他者に伝えること。	・地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。 ・家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付き、表現すること。

内容＼学部・段階		中学部	
		1段階	2段階
B衣食住の生活	食事の役割	食事の仕方や食事の大切さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	楽しく食事をするための工夫などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・健康な生活と食事の役割について知ること。 ・適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気付き、それらを他者に伝えること。	・健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切を理解すること。 ・日常の食事の大切や規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。
	栄養を考えた食事	―	バランスのとれた食事について考えることに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		―	・身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。 ・バランスのとれた食事について気付き、献立などを工夫すること。
	調理の基礎	必要な材料を使って食事の準備をすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	食事の準備や調理の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようすること。 ・簡単な調理計画について考えること。	・調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。 ・調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。
	衣服の着用と手入れ	衣服の着方や手入れの仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	衣服の手入れや洗濯の仕方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとすること。 ・日常着の着方や手入れの仕方に気付き、工夫すること。	・日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。 ・日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。
	快適な住まい方（1段階） 快適で安全な住まい方（2段階）	持ち物の整理や住まいの清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	住まいの整理・整頓や清掃などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとすること。 ・季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気付き、工夫すること。	・快適な住まい方や、安全について理解し、実践すること。 ・季節の変化に合わせた快適な住まい方に気付き、工夫すること。
C消費生活・環境	身近な消費生活	買い物の仕組みや必要な物の選び方などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な消費生活について考えることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとすること。 ・生活に必要な物を選んだり、物を大切に使おうとしたりすること。	・生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。 ・生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。
	環境に配慮した生活	身近な生活の中で環境に配慮することに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の生活と環境との関連などに関わる学習を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		・身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて知り、実践しようとすること。 ・身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。	・身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。 ・身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。

職業・家庭科

【指導計画作成上の配慮事項】

〈中学部〉

○題材など内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、作業や実習など体験的な活動と知識とを相互に関連付けてより深く理解できるようにする。

○職業分野・家庭分野に示された各段階の目標や内容については、分野相互の関連を図り、総合的に展開されるよう適切に計画すること。その際、小学部の生活科をはじめとする各教科等とのつながりや、中学部における他教科等との関連を重視することや高等部における職業科、家庭科、情報科等の学習を見据え、系統的に指導できるように計画する。

○生徒一人一人のキャリア発達を促していくことを踏まえ、発達の段階に応じて望ましい勤労観や職業観を身に付け、自らの生き方を考えて進路を主体的に選択することができるよう、将来の生き方等についても扱うなど、組織的かつ計画的に指導を行う。

○地域や産業界との連携を図り、実際的な学習活動や就業体験、実習等を計画的に取り入れる。産業現場等における実習については、校内での作業や就業体験等と関連させ、段階的・系統的に指導するよう配慮する。

【内容の取扱い】

〈中学部〉

○実習の指導に当たっては、施設・設備の安全・衛生管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いと事故防止の指導を徹底する。その際、適切な服装や防護眼鏡・防塵マスクの着用等による安全の確保に努める。

〈職業分野〉

○基礎的な知識及び技能を習得し、その理解を深めることで概念が育まれるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得できるよう、実践的・体験的な学習活動を充実する。

○生徒が習得した知識や技能を生活に活用できるよう、問題解決的な学習を充実するとともに、家庭や地域との連携を図る。

○職業生活や家庭生活に必要な生きて働く知識や技能及び態度の形成に重点を置いた指導が行われるように配慮する。

○職業生活における余暇については、家庭生活における余暇と関連させて指導する。

○「Ｂ情報機器の活用」については、家庭生活における情報機器の取扱いについても留意して指導する。

〈家庭分野〉

○食に関する指導では、職業・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資する。

○幼児と関わるなどの校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意する。

○調理に用いる食品については、安全・衛生に留意する。また、食物アレルギーについても配慮する。

10　外国語活動／外国語科

【教科の目標】

学部／目標	小学部（外国語活動）	中学部（外国語）
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
思考力、判断力、表現力等	身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
学びに向かう力、人間性等	外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【内容】

内容／学部		小学部（外国語活動）	中学部（外国語）
知識・技能	(1)　英語の特徴等に関する事項	具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動を通して、次の事項を見に付けることができるよう指導する。	実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を見に付けることができるよう指導する。
		○言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。	○英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと。 ・英語の音声を聞き、真似て声を出したり、話したりしようとすること。 ・英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの働きがあることを感じ取ること。 ・基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取ること。
		○日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。 ・英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。 ・外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。	○日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと。 ・体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 ・対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとしたりすること。
思考・判断・表現	(2)　自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項（小学部） 情報整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項(中学部)	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		○身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとすること。	○日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。
		○身近で簡単な事柄について、対手の働きかけに応じようとすること。	○日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。

内容＼学部				小学部（外国語活動）	中学部（外国語）
思考・判断・表現	（3） 言語活動及び言語の働きに関する事項	言語活動		（2）に示す事項については、（1）に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。	（2）に示す事項については、（1）に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。
				○聞くこと。 ・既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。 ・既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。	○聞くこと。 ・文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動 ・身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。 ・挨拶や簡単な指示に応じる活動。
				○話すこと。 ・既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。 ・既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りを使って表現する活動。	○話すこと[発表]。 ・自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。 ・身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。
				―	○話すこと[やり取り]。 ・簡単な挨拶をし合う活動。 ・自分のことについて、具体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。 ・ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。
				―	○書くこと。 ・身近な事物を表す文字を書く活動。 ・例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。
				―	○読むこと。 ・身の回りで使われている文字や単語を見付ける活動。 ・日本の人の名前や地名の英語表記に使われている文字を読む活動。
		言語の働き		言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。
			言語の使用場面の例	○児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面 ・歌やダンスを含む遊び。 ・家庭での生活。 ・学校での学習や活動。など	○特有の表現がよく使われる場面。 ・挨拶をする。 ・自己紹介をする。 ・買物をする。 ・食事をする。など
				○特有の表現がよく使われる場面。 ・挨拶。 ・自己紹介。など	○生徒の身近な暮らしに関わる場面。 ・ゲーム。 ・歌やダンス。 ・学校での学習や活動。 ・家庭での生活。など
			言語の働きの例	○コミュニケーションを円滑にする。 ・挨拶をする。	○コミュニケーションを円滑にする。 ・挨拶をする。 ・相づちを打つ。
				○気持ちを伝える。 ・礼を言う。など	○気持ちを伝える。 ・礼を言う。 ・褒める。
				―	○相手の行動を促す。 ・質問する。
（その他の外国語）				―	その他の外国語については、外国語の内容の〔英語〕に準じて指導を行うものとする。

外国語活動／外国語科

・外国語活動においては、言語やその背景にある文化に対する関心をもつよう指導するとともに、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を行う際には、英語を取り扱うことを原則とすること。
・外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。

【指導計画作成上の配慮事項】

〈小学部〉	○単元や題材など、内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、具体的な課題等を設定し、児童が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、コミュニケーションのよさを感じながら活動を行い、英語の音声や語などの知識を、二つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。 ○外国語活動の指導を行う場合には、第３学年以降の児童を対象とし、国語科の３段階の目標及び内容との関連を図る。 ○主として言語や文化に関する内容の指導については、コミュニケーションに関する内容との関連を図るようにする。その際、言語や文化については体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにする。 ○指導内容や活動については、児童の興味や関心に合ったものとし、国語科や音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高める。 ○授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制等の充実を図るとともに、指導方法を工夫する。 ○音声を取り扱う場合には、視聴覚教材を積極的に活用する。その際、使用する視聴覚教材は、児童、学校及び地域の実態を考慮して適切なものとする。 ○総則の道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、特別の教科道徳に示す内容について、外国語活動の特質に応じて適切な指導をする。
〈中学部〉	○単元など、内容や時間のまとまりを見通し、資質・能力を育成できるよう、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る。その際、具体的課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現などの知識を、五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る。 ○これまで学習した外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成する。 ○外国語科を設ける場合は、生徒の障害の状態や実態に応じて、指導目標を適切に定め、３年間を通して外国語科の目標の実現を図るようにする。また、高等部における指導との接続に配慮する。 ○指導内容や活動については、生徒の興味や関心、経験などに合ったものとし、国語科や音楽科、美術科などの他教科等で生徒が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高める。 ○学級担任の教師又は外国語を担当する教師が指導計画を作成し、授業を実施するに当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制等の充実を図るとともに、指導方法を工夫する。 ○外国語を通して他者とコミュニケーションを図ることの必要性や楽しさを味わうことができるよう工夫する。

【内容の取扱い】

〈小学部〉	○外国語でのコミュニケーションにおいては、児童の発達の段階を考慮した表現を用い、児童にとって身近なコミュニケーションの場を設定する。 ○外国語でのコミュニケーションにおいては、聞くこと、話すことに関する言語活動を中心とし、文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助する物として取り扱う。 ○言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解することができるようにする。 ○外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めることができるようにする。
〈中学部〉	○言語材料については、生徒に身近でなじみのある簡単なものから扱うようにするとともに、語、連語及び慣用表現については活用頻度の高いものを用い、必要に応じて繰り返し活用しながら体験的な理解を図るようにする。 ○主として言語や文化に関する内容の指導については、言語活動との関連を図るようにする。その際、日本語と外国語との違いに生徒が気付くなど体験的な理解を図ることとし、指導内容が必要以上に細部にわたったり、形式的になったりしないようにする。 ○生徒の実態や教材の内容などに応じて、情報機器等を有効に活用し適切な言語材料を十分に提供できるようにする。

第３節　指導計画の作成と各教科全体にわたる内容の取扱い　　【教解 小 P248・中 P522】

１　具体的な指導目標及び指導内容の設定

指導計画の作成に当たっては、一人一人の児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等に応じて、小学部は６年間、中学部は３年間を見通した全体的な指導計画に基づき、各教科に示された指導目標や指導内容を選定する。

全体的な指導計画に基づき、児童の興味・関心、学習活動の必要性なども考慮し、それぞれの児童生徒の状態に応じて、例えば、１段階の一部と２段階の一部の内容を選定し、それらを組み合わせるなどして具体的に指導内容を設定する必要がある。

また、選定された指導内容を適切に組み合わせ、単元等としてまとめて取り上げ、配列することが重要である。その際、実際の生活に結び付くよう具体的な指導内容を組織し、指導計画を作成することが大切である。

２　指導の形態の選択

個々の児童生徒の知的障害の状態、生活年齢、興味・関心、学習の経験などを全体的に把握した上で、教科別の指導を行うほか、必要に応じて各教科等を合わせて指導を行うなど、単元などの学習のまとまりを通して、児童の学習成果が最大限に期待できる指導の形態を選択することが大切である。例えば、算数の時間に金銭の数量的な扱いを学習した同時期に、実際の生活場面に即しながら学習することのできる単元を、生活単元学習として位置付けるなどが考えられる。その際、各教科等において育成を目指す資質・能力を明らかにし、各教科等の内容間の関連を十分に図るよう配慮することが重要である。

３　生活に結び付いた指導

個々の児童生徒の実態に即して、生活に結び付いた効果的な指導を行うとともに、児童が見通しをもって、主体的に学習活動に取り組めるよう、指導計画全体を通して配慮する。

生活に結び付いた効果的な指導を行うためには、児童生徒の興味・関心を考慮しつつ、家庭生活、社会生活に即した活動を取り入れたり、生活に十分生かされるよう継続的な取組にしたりするなど、工夫することが大切である。また、見通しをもって主体的に生活しようとする態度を身に付けられるようにするためには、学習予定を示したり、学習活動を一定期間繰り返したりするなどの工夫を行うとともに、充実感や達成感を味わうことで意欲を高められるようにすることが大切である。

さらに、児童生徒の様子を逐次把握したり、適切な師範を示したりすることができるよう、児童生徒と活動を共にすることや、指導計画に沿わない場合も想定し、児童生徒の学習状況に応じて柔軟に学習活動を修正したり、発展させたりする指導計画の工夫も必要である。

４　道徳教育との関連

道徳教育については、総則に示す目標に基づき、道徳科との関連を考慮しながら、各教科の特質に応じて適切な指導をする。例えば、生活科で、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育むためには、基本的な生活習慣の大切さに気付くようにしたり、自分でできることを自分でしようとする意欲がもてるようにしたりすることが重要である。このことは、道徳科「節度、節制」の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をすること」などと関連させ、指導していくことが効果的である。

各教科等を合わせて指導を行う場合にも、年間指導計画の作成などに際し、道徳教育の全体計画との関連、指導内容及び時期等に配慮し、相互に関連させて指導の効果を高め合うようにすることが大切である。

５　学習環境の整備

児童生徒が、生活や学習の自然な流れに沿って、一連の活動に見通しをもち、意欲的に学習に取り組めるような活動を組織することが大切であり、そのための環境の設定を工夫する必要がある。

特に、児童生徒が安心して学習に取り組めるよう、安全な環境を整えることは重要である。その際には、一人一人の障害の状態等を考慮し、児童生徒が危険な場所や状況を把握したり、判断したり、予測したり、回避したりすることができるよう安全に関する十分な指導を進めるとともに、教室の中の遊具や物品、校庭の遊具、通学路などの安全点検を十分に行うことが大切である。また、学習活動においても、物品の取扱いなどに留意しつつ、衛生にも配慮して指導を行うことが大切である。

６　自立と社会参加に向けた指導

個々の児童生徒の自立や社会参加に向け、小学部段階から、計画的な指導をより一層充実させていくことが重要である。

小学部は６年間、中学部は３年間を見通しながら、その時期に育成を目指す資質・能力を整理し、学習状況の評価を行いながら、繰り返し経験できるようにして学習の定着を図ったり、経験の拡大を図ったりするなど、計画－実施－評価－改善のサイクルを踏まえて指導計画を修正・加筆し、指導していくことが重要である。

特に、知的障害のある児童生徒の学習上の特性を考慮し、どのような指導すべき事項をどのように学習として積み上げ、育成を目指す資質・能力を育むことができるのかを十分に検討した上で、年間指導計画に基づき、組織的に指導していくことが重要である。また、学年進行の際には、学習内容を確実に引継ぎ、生活年齢に即した指導内容を計画できるようにすることが大切である。

７　家庭等との連携

児童生徒の基本的生活習慣の確立を図り、生活経験を広げていくためには、学校における指導内容・方法について家庭等と連携を図ることが重要である。その際、学習の結果のみではなく、学習過程を含めて相互に共有することが大切である。例えば、個別の指導計画等に基づき、学校で身に付けたことを家庭等でも取り入れたり、地域において実際に活用できるようにしたりするなど、工夫することが考えられる。

家庭との連携においては、学校から家庭等への一方向ではなく、家庭での取組を参考にして学校の指導を充実させるなど、双方向の情報共有が大切である。

８　教材・教具やコンピュータ等の活用

知的障害のある児童生徒の障害の状態や学習状況、経験、興味・関心などを踏まえ、使いやすく効果的な教材・教具、補助用具などを用意したり、実生活への活用がしやすくなるよう、実際に使用する用具などを使ったりすることが重要である。例えば、言葉や文字による理解や音声によるコミュニケーションが難しい場合でも、児童生徒に応じた絵カードなどの教材やコミュニケーションを支援するための補助用具などを用意することで、児童生徒の可能性が引き出されることがある。

また、自力で取り組むことを目的に補助用具などを取り外す場合には、段階的に進めるようにし、児童生徒の負担を考慮することが必要である。

さらに、コンピュータ等や情報通信ネットワークを使用して児童の意思表示を明確にするなど、効果的な活用を図ることが大切である。